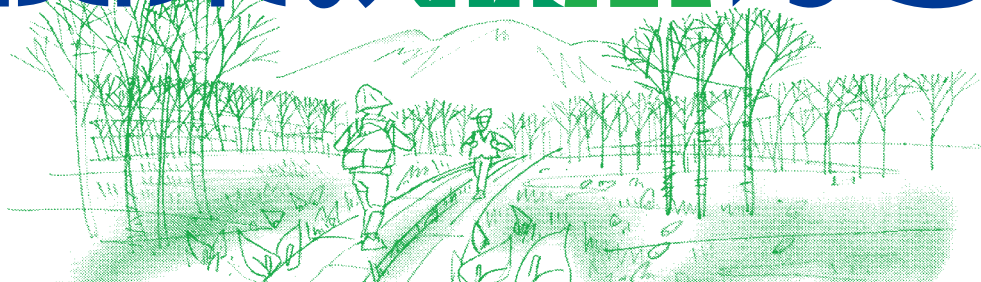


平成19年 7 月 1 日

第40号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL (027)210-1158

FAX (027)210-1159

<http://www.kanto.kokuyurin.go.jp/>



湯の丸高原のレンゲツツジ（群馬県嬬恋村）

（撮影：群馬署 菊池 昭次氏）

特集 … 小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会の開催
～貴重な自然を後世に残していくために～

計 画 課

私の視点 「この豊かな自然を後世に引き継ぎたい」
吾妻地区国有林野保護監視員連絡協議会
会長 添田 啓一 氏

森林官からのおたより
（日光森林管理署 日光森林事務所
首席森林官 小島 幸彦 さん）



広報「関東の森林から」は、日本の森林を育てるため間伐材を使用しています。

小笠原諸島森林生態系保護地域 保全管理委員会の開催

— 貴重な自然を後世に残していくために —

計画課

小笠原諸島は、東京から南南東へ約1,000^{キロ}の太平洋上に孤立した、大小30余りの小島群からなり、過去に一度も大陸と陸続きになつたことがない海洋島です。島の生成の古さや大陸から遠く隔絶された大洋上という条件から、独自の進化を遂げた世界的に貴重な動植物が数多く生息・生育しており、本年4月に小笠原諸島における国有林野のほとんどを「小笠原諸島森林生態系保護地域」に設定しています。

また、小笠原諸島は、本年1月に「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（通称：世界遺産条約）に基づき、世界遺産暫定一覧表



委員会で挨拶する藤江計画部長



固有の植生を食い荒らす野ヤギ
(民により捕獲)

に自然遺産として記載されたところでもあり、関東森林管理局では小笠原諸島の6割以上を占める国有林野の特異的・原生的な自然を後世にわたり健全な状態で残し、人為活動や外来種の影響により劣化した自然を、除々に原生的な自然に回復させるため、森林生態系保護地域の設定に併せ、「小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会」を設置することとし、平成19年5月18日（金）に小笠原ビクターセンターにおいて第一回委員会を開催しました。

第一回保全管理委員会では、効果的な外来種対策や利用のルールなど、本森林生態系保護地域における保全

管理のあり方の指針となる「保全管理計画」の構成・考え方等について意見交換を行いました。今後、数回の委員会及びアドバイザー会議等を経て平成20年3月までに同計画をとりまとめることとしています。

小笠原森林生態系保護地域 保全管理委員会

○委員名簿

清水 善和	駒澤大学総合教育研究部教授
谷本 丈夫	宇都宮大学名誉教授
中山 隆治	環境省小笠原自然保護官事務所首席自然保護官
森下 秀夫	小笠原村観光協会会長
板東 雅樹	小笠原支庁支庁長
平賀 洋子	小笠原母島観光協会副会長
堀越 和夫	小笠原自然文化研究所理事長
宮川 典継	小笠原自然観察指導員連絡会会長



固有の昆虫に壊滅的被害を与える
グリーンアノールトカゲ

○アドバイザー名簿

森下 一男	小笠原村長
安井 隆弥	小笠原野生生物研究会理事長
阿蘇品 勉	環境省関東地方環境事務所国立公園・保全整備課長
井上 卓	東京都環境局自然環境部自然公園担当課長
可知 直毅	首都大学東京都市教養学部教授
加藤 英寿	首都大学東京都市教養学部助教
荻部 治紀	神奈川県立生命の星・地球博物館主任学芸員
川上 和人	森林総合研究所野生動物研究領域主任研究員
田中 信行	森林総合研究所植物生態研究領域チーム長
横山 隆一	日本自然保護協会常勤理事



他の植生を圧倒する外来種のアカギ

赤谷プロジェクト 近況報告

赤谷の森自然散策を実施

一般の方々に「赤谷の森」（＝赤谷プロジェクト）をもっと知ってもらうための活動の一つである、赤谷の森自然散策が、エゾハルゼミが鳴き始めた5月27日に開催されました。

当日は春の陽気の中、参加者の皆さんはリスやムササビの食痕からその生活を想像したり、声はするけど姿が見えないタゴガエルの話を聞いたり、植物の種子散布の巧妙な戦略や森林の仕組みとそれを利用してきた人間の営みについて、赤谷プロジェクト地域協議会の会員でもあるガイドの方の巧みな話を楽しめたことと思います。



「赤谷の森自然散策」の一コマ
小出侯のシンボルツリーである大カツラを囲む参加者



猛禽類モニタリング研修では、講義の後、実際に観察を行いました

また、散策の途中には赤谷プロジェクトで実施している自然再生試験地があり、ここでは、赤谷センター職員から赤谷プロジェクトの取組を解説しました。

参加者からは、「生態系の保全、生物多様性の具体的なイメージについてもっと学びたい」、プロジェクト作業に参加できるようなプログラムが組めないか」と言った積極的な要望もあり、関心の高さが伺えました。

今回は春の「赤谷の森」を歩きましたが、この企画は秋と冬にも計画されており、次回はまた違った「赤谷の森」を感じることができるようではないでしょうか。興味のある方は是非ご参加下さい。

「赤谷の森」で森林ふれあい 実務研修を開催

関東森林管理局管内の森林官やふれあい係長を対象とした「森林ふれ

あい実務研修」が「赤谷の森」で開催されました。

この活動は本年度より始まったもので、センター職員が講師となり、①赤谷プロジェクトの概要、②植生復元モニタリング調査、③猛禽類モニタリング調査、④ホンドテンのモニタリング調査、⑤溪流環境に配慮した治山事業について、⑥赤谷プロジェクトにおける環境教育手法、の6つの研修プログラムを、野外実習を中心に3日間に渡り実施しました。これらのプログラムは赤谷センターが日々の業務の中で行っていることでもあり、研修生からは「赤谷プロジェクトの詳しい活動内容を知ることができた」、「猛禽類についての漠然とした認識を改めることができ、これからの森林管理のあり方も変わっていかねければと感じた」といった感想が寄せられました。また、森林環境教育については「今まで以上に



治山事業が行われる沢を歩きながら、どのような取組が行われているのか解説しました

お知らせ

動物等を観察し、フィールドサインを見逃さないようにして、森林環境教育に活かしたい」、「センサーカメラを森林環境教育に活用したい」といった意見もありました。

このような研修の機会、特に若手職員の皆さんに対しては、国有林の中でも様々な活動があることを知って頂ける機会でもあり、とても有意義なものであると感じています。

（赤谷森林環境保全ふれあいセンター）

笹ヶ峰高原 仲間とともに
あなたも走ってみませんか。

第9回妙高高原笹ヶ峰トレイルランニングが妙高市笹ヶ峰高原笹ヶ峰林間コースで開催されます。

ウッドチップを敷いた脚にやさしいトレイルランニングに、あなたも参加してみませんか。

一、日 時 8月26日(日)

一、申込期限 8月3日(金)

参加費、申込み等については、次のところにお問い合わせて下さい。

妙高市役所観光交流課内

妙高高原笹ヶ峰

トレイルランニング実行委員会

Tel 0255-586-4000

又は、上越森林管理署

Tel 0255-524-2180

各署便り

森林保護員

(グリーン・サポート・スタッフ)による天然生林の巡視



森林保護委員による天然生林の巡視

〔中越署〕6月3日(日)に、平標山の山開きが行われ、同日から森林保護員(グリーン・サポート・スタッフ)による谷川岳周辺(平標山)の天然生林巡視を開始しました。

この事業は、近年、登山者の増加に伴い植生荒廃や森林機能の低下も見られるため、登山道周辺を森林保護員が巡視して、人為による植生荒廃等を防止することを目的としています。

当日は、平標山に至る登山道周辺

に、お揃いのベストと帽子を身に着けた森林保護員が、登山者へ「しおり」を配布し、植生の荒廃防止やゴミの持ち帰りについてお願いをしました。

登山者や子供たちは、森林保護員手作りの「しおり」を受取って大変喜んでいました。本事業はまだ開始して2年目ですが、この事業を通して植生荒廃の防止を図り、二酸化炭素の吸収源として天然生林の確保に資することを期待しています。

(業務課長 柳澤二三雄)

妙高笹ヶ峰癒しの森設定記念

「夢見平ミズバショウの集い」開催

集い」開催

〔正越署〕5月20日(日)、「妙高笹ヶ峰癒しの森」の設定を記念し、「とつておきのミズバショウを見て、森の癒しにふれ、もりもり元気になる集い」をテーマに、170名の参加を得て、「夢見平ミズバショウの集い」を開催しました。

癒しの森は、森林の持つ癒し効果に関心と期待が高まっている中で、数多くの大樹、ブナ、カラマツ等の多様な樹木があり、ミズバショウ等の山野草が豊富な地蔵山国有林夢見平地区を「妙高笹ヶ峰癒しの森(面積425ha)」として、森林の持つ癒しにふれあうことができる場として市民に提供しようと設定したもので



「癒しの森」看板除幕式後の記念撮影

す。

集いでは、来賓の山川雅典関東森林管理局局長が、「夢見平、最高」を織り込んだ和歌「雪清ら 芽吹きの森さ 満つる愛 大樹の宝庫 癒され集う」を披露され、拍手喝采を受けました。また、入村明妙高市長、横尾幸秀県議から御祝辞をいただいた後、看板除幕をして、癒しの森をオープンしました。その後、湿原や小沢に咲き誇るミズバショウ、歩道沿いのニリンソウやカタクリ、池のクロサンショウウオの卵塊等素晴らしい自然を堪能しながら4キロの道を散策していただきました。

「尾瀬にも負けないミズバショウに感激した」「山野草が多く素晴らしい」「説明が良かった」等の感想が寄せられ、大好評でした。

なお、集いに先立つ5月9日(水)

には、観光や森林環境教育の場として活用していただけるよう、地元妙高市内の観光・教育関係者80名を対象に、「夢見平ミズバショウ見学会」を開催し、見所や入林マナー・ルールを学んでいただきながら、散策していただきました。

(広報連絡官 佐藤量司)

森林技術コンテストで

林野庁長官賞

〔東京神奈川署(社) 日本森林技術協会主催による第53回森林技術コンテストが5月21日に開催され、当局から推薦した東京神奈川森林管理署の柴崎一道さんと高尾森づくりの会白井聰一さんが共同で発表した「高尾小下沢国有林での落葉広葉樹の森づくり」が林野庁長官賞を受賞しました。

このコンテストは全国の森林管理



林野庁長官賞を受賞した
柴崎・白井の両氏

会 第62回 通常総会

局や県等が森林技術の業務推進のため行ってきた研究の成果や体験等について発表するもので、今回は9課題の発表がありました。

発表された課題は、東京神奈川森林管理署と日本山岳会が、2001年に協定を結び「高尾の森づくりの会」を立ち上げ、高尾の小下沢国有林において多様な林相がモザイク状に分布する森林を目指し、スギ・ヒノキの壮齡林を針広混交林へ誘導するため、約30種の落葉広葉樹を植樹してきた6年間の活動状況を紹介したものです。高尾森づくりの会では2005年に「50年長期計画」を作成し、「多様で豊かな森林」への回帰を目指し、森林整備を進めています。今回の受賞を機に益々の活躍を期待するところです。

(広報連絡官 石井正夫)

木が香る秩父フェスティバル

【埼玉所】 4月28日(土)、29日(日)の両日、「道の駅ちちぶ」に於いて、春恒例のイベントを行いました。

このイベントは、秩父地区木材利用拡大検討会が主催し、メンバーである当所の他に、東京大学秩父演習林、県秩父農林振興センター、秩父広域森林組合、木工品製造販売業者が出店しました。

公的機関は木材利用拡大のための



丸太切りを楽しむ子供たち

PR、広報パンフレットの配布が主体であり、当所では国有林の位置図を展示し、国有林のあらまし、あなたのまわりの国有林、緑の回廊、国有林の巨木、フェアウッド等のパンフレットを配布し、丸太切り体験、竹切り体験を行いました。

この連休期間中は、「芝桜まつり」も開催されており、首都圏等からの多くの観光客が訪れて賑わいを見せ、多くの子供たちがヒノキの丸太切りを体験し、ヒノキの香りにニッコリしながら「いいにおい」と喜ぶ姿が印象的でした。

(流域管理調整官 岩下禮治)

モリアオガエルの産卵シーンに全員感動

【伊豆所】 6月7日(金)、伊豆市立湯ケ島小学校の四年生と五年生(47名)

から「天城山や八丁池の生い立ち」、「歩道や八丁池で観察できる動植物」などについて学びたいとの要請を受け、「天城を守る会」の栗田会長と当署職員4名が講師を務める自然観察ハイキングを行いました(当署の3つのモデルコースのひとつ「八丁池とブナ林」コース)。

天城の名前のもととなったアマギアマチャやヒンヤリと冷たい感触のヒメシヤラとの出会い、ヒノキを主体とした人工林とブナを主体とした天然林の両方が観察できるポイントでの感動など、子供たちにとって忘れられない思い出として記憶されたようです。

八丁池はモリアオガエルの繁殖地として有名ですが、1,150畧の高地のため卵塊はまだ見ることができませんでした。ところが、バスに



八丁池でモリアオガエルについて説明を聞く児童たち

乗つての帰り道、寒天車道沿いで偶然、モリアオガエルの産卵に遭遇することができました。二度と見ることが出来ないかも知れないシーンに、全員、大感動。自然から子供たちに最高のプレゼントが贈られました。

(森林ふれあい係長 関合麻美)

ANAインターコンチネンタルホテル東京の社員等による植林イベント

【山梨所】 ANAインターコンチネンタルホテル東京(旧東京全日空ホテル/東京都港区/総支配人・清田甚が、4月21日(土)、山梨森林管理事務所の管轄する甲府市古府中町の大日影国有林「つつじヶ崎の森」において、「第一回ANAインターコンチネンタルホテル東京の森林植林活動」を実施しました。

当日は、天候に恵まれた春の日差しの中、同社従業員とその家族、ボランティアなど総勢約100名が参加して、ケヤキやサクラなど500本の苗木を植えました。

同ホテルは、今回の取組に先がけ、平成18年4月から連泊の宿泊客にシート、タオルの再利用を呼びかけました。その結果、クリーニング量が減少、水の節約、洗剤等による水質汚染が減少し、同時にコストの削減が図られました。同ホテルはこのコ



参加者の植林活動の様子
(ケヤキ・サクラの植林)

スト削減分で森林づくり活動に参加することとし、今回の取組が実現しました。

今回、森林づくり活動を行った場所は、武田神社近くのつつじヶ崎で、一昨年4月に山火事があった跡地です。また、今回の取組は植林などのノウハウを持つ財団法人オイスカと協働して行われました。

今後同ホテルは、毎年、植樹、下刈りなどの森林整備を行って行くこととしています。

(広報連絡官 生方啓司)

天竜林業高校生 当署で職場体験実習

天竜署 6月5日(火)～8日(金)の4日間にわたって県立天竜林業高校生徒を受け入れ、職場体験実習を実施しました。今回参加したのは三年生の升本さん、山下さん2名の男

子生徒。2人ともアーチェリー部に所属するスポーツマンです。

先ず第1日目はオリエンテーションに始まり、国有林の概要、森林環境教育や各種事業の概要、図面の見方、空中写真と森林GIS利用・操作等室内研修を行いました。

2日目は水窪国有林の治山現場を視察。熊避けの鈴の携行にはビックリしていました。急峻な場所での困難を極める治山工事を目の当たりにして、コンクリート打設や自然相手での予測できない事故の対応等について熱心な質問がありました。

3日目は天竜林業発祥の地、瀬尻国有林で森林調査です。間伐調査を通じて、間伐の重要性、引いては日本の林業の厳しさまで理解できたとコメントしていました。

そしていよいよ最終日。観音山国有林でガイドウォークコースの植物観察です。講師は昨年入庁した堀井



堀井係員の説明に熱心に耳を傾ける実習生

香里さんが担当。コース内にある渋川ツツジ群落や各種樹木を熱心に観察しました。

全てのカリキュラムを終え「実際に自分の目でみて確かめたことが貴重な体験となった。」との感想で4日間にわたる体験実習を無事終了しました。

(広報連絡官 山本富夫)

ボランティア

巡視員会議を開催

「村上支署」 積雪のため閉鎖していた朝日スーパーラインが間もなく開通を迎えるにあたり、5月30日(水)村上支署会議室において、朝日山地生態系保護地域ボランティア巡視員会議を開催しました。

当該地域の保護・管理は、地元関係者の協力の下で行われることが重要であり、関東・東北両森林管理局管内から総勢約100名程度ボランティア巡視員を選任することが管理委員会決定されています。

村上支署管内では、「三面川の原生林を守る会」と「さけの森林づくり推進協議会」のご支援・ご協力を得て、今年度12名の方々をボランティア巡視員としてお願いすることとしており、目黒支署長から委嘱状を交付いたしました。

会議では、各巡視員から提出された巡視結果の報告や平成19年度巡視

活動方針等の説明を行った後、意見交換に入りました。

意見交換では、「スーパー林道の開通とともに入山者が多く訪れ、食べ残し等のゴミや空き缶・空き瓶等が捨てられるようになってきた、入山者にはゴミの持ち帰りを徹底させることが必要である。」「ナラの枯れが目立つ、対策はないか」「吊り橋を直してほしい」「注意すると逆に脅かされる」等の意見が出され有意義に会議を終了しました。



巡視員会議

「森の癒し歩道」の 案内役を養成!!

(業務課 杉山茂人)

「吾妻署」 当署管内の白根国有林に設定されている森の癒し歩道「ロイヤルコース」「サイクリングロード」「草津やすらぎの森」を舞台に、草津森



林の中で自然体験活動の指導を受ける受講者

林療法協議会（事務局は、吾妻森林管理署と草津町役場）では、森林療法のアドバイザーとなる「草癒しトレーナー養成講座」（前期）を昨年に引き続き開講しました。講師には、医師、大学助教授、東洋医学の先生等さまざまな方面で活躍している方たちを招き、6月3日（日）・6月4日（日）と27日（水）の3日間の講習会が行われました。受講者は、草津町周辺で自然ガイドをしている人たちなど30人で、アドバイザーとなるため真剣に取り組んでいました。

特に、上原徹先生（東京農業大学准教授）による「森林療法カウンセリングワーク」では、森の癒し歩道「ロイヤルコース」を歩きながらの実践講義で、ポイントを分かりやすく説明され大変好評でした。

この後受講者は、後期（9月～11

月）3日間の講習を受けて、「草津森の癒しトレーナー」に認定されます。

（広報連絡員 関上辰弥）

境界管理現地検討会を開催

下越署 下越森林管理署では、国民からお預かりした国有林の適切な管理経営を目的として、職員の業務知識及び技術向上のため、「19年度下越森林管理署現地検討会実施計画」を策定し、その第一回目を、5月23日（水）に国有林と民有地の境界線の適切な管理技術の修得を目的に「境界管理現地検討会」を開催しました。

午前の部においては、境界点再現の実務処理などの座学、午後からは、トランシットによる境界点の再現実習を行いました。

担当者の指導の成果もあり、器械の操作にもなれ、自信につながる検討会となりました。



現場での実習

今回は森林環境教育等の業務に活かすため、「野鳥調査現地検討会」を開催する予定です。

実施名称	内 容
境界管理	トランシットの操作・測点 再現
野鳥調査	野鳥の見分け方
樹木調査	樹木の見分け方
空中写真	空中写真の基礎知識
森林整備 検討会	五頭山周辺森林整備 検討会
木材加工	針葉樹合板製造の現 状認識
木材取引	木材取引の現状認識
保安林管理	伐採協議・作業行為 申請の実務

（流域管理調整官 富樫仁栄）

国有林野事業見学会

参加者募集中

実施日 平成19年8月5日（日）

内 容 「玉原高原」自然散策と
ラベンダーパークの見学

参加費 大人・子どもとも
1,000円

詳細については、

関東森林管理局

指導普及課 緑の普及係へ

Tel 027-210-1175

関東森林管理局

「美しい森林づくり」

運動推進本部開催

6月21日、関東森林管理局「美しい森林づくり」運動推進本部を開催し、「美しい森林づくり」に向けた今年度の具体的な取組を決定しました。

具体的には、緑豊かな循環型社会の構築に向けて、100年先を見据えた森林の整備、安全・安心の確保のための効果的な国土保全事業の推進、低コスト作業システムの普及・定着、木材の安定供給、公共工事等での木材利用の推進などに取り組むこととしています。

また、森林を支える生き活きとした担い手・地域づくりの取組として、地域の人材の育成・確保、山村特有の資源の保全とこれらを活用した地域づくりを推進します。

さらに、都市住民企業等の森林づくりへの幅広い参画を促進するため、NPO等へのフィールド提供、森林環境教育・森林セラピーを通じた国民の森林に対する理解の醸成、「美しい森林づくり」に関する国民への広報活動等に取り組みます。

今後は、これらの取組を着実に進めるとともに、職員から新しい取組のアイデアを募集するなどして、「美しい森林づくり」の取組を広く展開していきたいと考えています。

（企画調整室）

森林官からののおたより

日光森林管理署 日光森林事務所

首席森林官 小島 幸彦

栃木県の西部には男体山・大真名子山・女峰山・赤難山など標高2,000級の山塊が連なり、日光連山と呼ばれています。日光連山の南東方向に広がる山裾は広大で、深い谷地形もいくつか存在し、起伏に富んだ地形になっています。山麓にある旧日光市街地を含んだこの地域は表日光地域とも呼ばれており、西方の奥日光地域の玄関口になっています。地域には、世界遺産に登録された東照宮・輪王寺・二荒山神社を中心とする社寺のほか、華厳ノ滝、裏見ノ滝、雲竜渓谷、霧降高原など多くの景勝地や観光地があります。日光森林事務所はその東方にあり、この表日光地域の国有林の管理経営を行っています。当事務所が所管する4,200haの国有林の98%は日光国立公園に含まれています。したがって、環境の保全・利用と森林施業のバランスを重要視した国有林の管理経営が国民から求められています。

当事務所の北側には標高757mの小倉山があり、周辺の国有林は自



小倉山での野鳥観察会

然観察教育林に指定されています。3年前に日本野鳥の会栃木県支部と協定を結び、「小倉山野鳥の森」を設定しました。スギ・ヒノキの人工林とコナラ・モミが優占する自然林が混在する森林です。生物多様性の維持・増進を目指した森林施業、その実施のために必要な科学的な調査活動、自然環境保全の大切さについての普及活動を当署と野鳥の会が連携協力して行うことを協定の目的とし

ています。

普及活動の一環として、「森林と野鳥に親しむつどい」を今年度も5月に開催しました。20種以上の野鳥が観察され、「巨樹・巨木百選」にも選ばれた「太郎モミ」の大木の梢で囀るオオルリを参加者一同で堪能しました。

男体山の東方に標高1,398mの丹勢山があり、その南斜面にアカマツ人工林があります。かつては林内にヤマツツジの大群落がありましたが、近年はヤマハンノキやリョウブなどの雑木が生い茂り、ツツジが



日光連山を望む（左奥が女峰山）



ツツジ群落の森林整備

衰退しています。このツツジ群落は地元（清滝町）の一部の人にしか知られていないことから、この度、日光市と当署が連携・協力して、知られざるツツジの名所をピーアールしようと、一般ボランティアによる森林整備を行いました。天候に恵まれた6月2日に約40名の参加者が雑木の除伐作業に取組みました。自分が伐った雑木が倒れるたびに参加者から歓声が上がっていたのがとても印象的でした。

今春、期待の新採（筒井美希さん）が我が事務所にやって来ました。森林パトロール、収穫調査、境界巡検、森林被害調査、そして（私の趣味と実益を兼ねた？）猛禽類の生息調査などの手法について彼女に伝授すべく、現場へ引っ張り回している毎日です。

私の視点

「この豊かな自然を後世に引き継ぎたい」

吾妻地区国有林野保護監視員連絡協議会

会長 添田 啓一

国有林野保護監視員協議会

結成について

私は福島市に生まれ育ったので、吾妻山は四季を通して自然に親しんで参りました。

現在は観光道路が出来ており、吾妻山は四季を通して自然に親しんで参りました。



活動拠点の吾妻山

山者のために盗採や踏み荒らしで、近年は著しく荒廃してしまいました。このような状況が続けば、登山道に咲き誇っていた高山植物がやがて消えてしまうことを懸念し、私の所属する日本山岳会メンバーを中心に平成10年連絡協議会を立ち上げました。

お陰様で数人で立ち上げた会は現在、会員35名となっており、今年既に福島森林管理署が委嘱している国有林野保護監視員の方からも数名の加入申し込みがありました。

高山植物の報道について

以前、テレビで吾妻山の姥ヶ原の白いイワカガミが放映されました。放映の中では場所の特定はしてありませんでしたが、数日後その場所を訪れたところ珍しい白のイワカガミは無惨にも根こそぎ盗採されていました。年に何度か地元の新聞に高山植物の花が美しく咲き誇っている様子が掲載されますが、残念な



保護監視員の研修

から新聞等に掲載される高山植物の写真撮影の場所の多くは立ち入り禁止場所からの撮影に見受けられます。マスコミの方々には報道の仕方の再考をお願いいたします。

中高年カメラマンに

私自身小学生の頃からカメラを始め登山歴同様60年近くになり、現在毎日新聞の日本報道写真連盟の福島県本部理事長をさせていただいております。

昨今は山へ登っても目立つのがやはり中高年のカメラマンです。登山道を跨ぐように大型の三脚を立て、一点の花に集中し撮影していて、帰途その場所を見ると無惨にも花が折られているというようなことが多々あります。他の人には同じ写真を撮られたくないという気持ちなのでしょ

うか。

中高年カメラマンの方が全てそうではないと思いますが、自重を希望します。

保護監視員として

高山植物の盗掘の大半は、一般登山者、観光客がビニール袋と園芸用小スコップを手にしての安易な気持ちからの盗採です。

最近のパトロールでは、女性が大い石全体を覆っている苔を剥ぎ取ろうとしている現場に遭遇し、原状復帰をしてもらった例があります。

これからも山のルールを守ってもらうため登山者に対し、注意でなく穏やかなアドバイスで美しい自然を後世に引き継ぎたいと考えております。



活動中の打合せ

箱根の森林の

再生を目視して

(ボランティアとの取組)

東京神奈川森林管理署は、平成8年より「NPO法人地球緑化センター」と「ボランティアの森」活動に係る協定を締結し、芦ノ湖風景林内における台風被害跡地の復旧を中心に、地拵・広葉樹の植付・下草刈りや保育間伐・歩道整備等を実施していただいています。

又、昨年度は、「芦ノ湖東岸姥子の局地的な暴風雨により植栽木が転倒被害を受けた箇所の整備をお手伝いいただけませんか」と打診したところ、快く引き受けて頂き平成18年3月に従来の箇所と併せ、合計6・50畝を

森林整備の活動の場とする協定を結ばせていただきました。

地球緑化センターの活動の特徴は、当初から署との連携を大切にして活動していることです。今回追加された箇所（通称「姥子の森」）での活動にあたって、「森づくり研究会」を発足させ、年3回ほどの会議を開催し、自然の復元にはどのような方法がよいのか、樹種は何か適しているのか等森林管理署とともに検討しています。

活動は、毎月一回2日程度、定期的に被害地の枝条整理や下草刈りなどの森林整備活動を実施しています。が昨年12月には東京都大田区東六郷小学校の児童34人を迎えて森林環境教育（植樹）を実施しました。準備は、春先よりボランティア会



被害地の枝条整理作業

員の皆さんを中心に行われ、当初は胸高直径20センチくらいのはノキが根こそぎ転倒している中、大変な思い

で枝条の整理等が行なわれました。植樹当日は、小雨まじりでしたが、保護者や教師15人に加え会員達は子供達の植樹作業や丸太切りの支援にあたりました。

東京神奈川森林管理署は、今後も「自分から出来ることから一歩ずつ」箱根の森の再生に全力で取組む「NPO法人地球緑化センター」と、出来る限りの協力と連携を図りつつ、箱根の森再生に尽力していく所存です。

（広報連絡官 石井 正夫）

発行所 関東森林管理局
編集 総務課

TEL(027) 210-1158
FAX(027) 210-1159

一枚の写真



通称「めがね橋」
（群馬県松井田町）

この写真は、今年6月、ユネスコの世界文化遺産暫定リスト入りが認められた「富岡製糸場と絹産業遺産群」の一つである碓氷峠鉄道施設の橋梁、通称「めがね橋」です。国の重要文化財にも指定されています。優美なアーチと時代がかった赤煉瓦の色が周囲の緑と調和し、美しい景観を作っています。場所は、群馬県安中市松井田町にあり周囲は国有林です。

今回、明治期の日本の文明開化の先駆けとなった絹産業の繭や生糸の輸送に關した鉄道施設の遺産として評価されたものです。

この鉄道路線は、当時、その険しさから最後まで残されていた碓氷峠を越える列島横断ルート、群馬県横川～長野県軽井沢間、約11キロ、標高差533メートルを結ぶ碓氷線（信越本線）にあたります。明治24年に着工し、難工事の末、明治26年に開通したもので、1000分の66.7の急勾配を克服するため、イギリスの技術指導を受けてアプト式鉄道で建設

されました。現在は、長野新幹線の開業に伴い、平成9年に廃線となりましたが、現在も国有林を縫うように、全て煉瓦で造られたいくつもの橋梁、隧道等が遺構として残されています。

めがね橋は、4連のアーチ橋で全長91メートル、高さ31メートル、使用された煉瓦は約200万個に及び、現存する煉瓦造りの橋の中では国内最大規模です。

（群馬署 広報連絡官 北中博久）

